

日本計量生物学会

ニュース・レター No.58

1997年1月

目次

巻頭言

1997, 98年度役員選挙結果報告
1997年度合同年次大会のおしらせ
関連学会等のおしらせ
1996年度第4回理事会議事録
会計理事からのお知らせ
事務局からのお知らせ

吉村 功 (東京理科大学工学部)

このところ厚生省周辺が何かと騒がしい。薬害を甘く見た事件、たかり専門の事件等が相次いでいるのだから当然である。これが氷山の一角なのか、偶然の集積なのかは分からないが、中央薬事審議会臨時委員という名で厚生省と多少は関連のある筆者にとって他人事とは思えない。いろいろ考えさせられるものがある。

考えさせられることの一つは、職能に伴う義務、責任、それと超えてはいけな一線は何かである。今回はこれについてあまりにも甘くなっている現実が現れたのではなかろうか。役人あるいは学者にその倫理を考える風潮がなかったということでないだろうか。

職能が、それほど誇るべきこと、尊敬を受けるべきこと、とは認められていない日本でもあまり重視されていないものに、professional code of ethics がある。職能に伴う倫理綱領とでも訳すべきものだろうか、職能家が受けている尊敬、地位尊重に伴う義務、責任、自らを律する一線を文章化したものである。

社会調査に携わる統計家の間での code of ethics には、国際統計協会 (ISI) がまとめた Declaration on Professional Ethics (ISI Review, 54, 227-242 1986) がある。これは、個人の協力を得て内部を覗く社会調査統計家には、その結果を社会に正確かつ有効に返す義務があり、プライバシーを尊重する倫理的責任があることを明記したものである。

臨床試験に関わる医学者にたいしては、The "Declaration of Helsinki" がある。これは、臨床試験は患者を実験台にするのだから、患者の人権を第一にしなければならないという注意と、やはり得られる成果はその価値が明確にされなければならないことを指摘している。

この両者に共通することは、データを取得するときに社会一般の人たちに協力を求めて

いるからには、そのデータを特定の人あるいは組織に有利に歪めて利用してはならないということと、個人の人権を守るために最大の努力をしなければならないということである。当然なことである。

ひるがえって biometrician (計量生物家) を見たときはどうだろう。倫理は関係ないだろうか。そうではないだろう。Biometrician は生物一般を通して、研究者の倫理を問われる多くの側面を研究の題材としている。環境を研究するものには環境を守ること、動物実験を通した研究では動物愛護、DNAを扱うものにはより直接に遺伝子を巡る諸問題が倫理的側面を多く含んでいる。この学会でもそういう側面を常に意識し、そういう問題を正面切って取り扱う必要があるのではなかろうか。

筆者が関係している「臨床試験に関する統計解析のガイドラインの国際調和のための会議 (ICH)」では、臨床試験に携わる統計家の責任と倫理を一つの問題として議論した。具体的に項目としてまとめることや、文章としてガイドラインに取り入れることはなかったが、人を実験台にする限りできるだけ被験者数を少なくするよう計画を工夫すること、有効な治療があるときには placebo が非倫理的であるから避けること、データから得られる情報を正確に表現し公表すること、こういったことが統計家の責任に属する、といったことを原理的に参加者に認めてもらえたと筆者は感じている。

公務員は関係者とコーヒーまでしか一緒に飲食してはいけないといった類の形式的なものでなく、こんなときにこんなことをするのは統計家の責任を果たしていないことになる、といった文学青年的な議論がたまにはあってもよいのではなかろうか。そういうことに白けるという風潮が結果として、歯止めをなくすことになっているように筆者は感じるのである。

計量生物学の職業倫理として何を考えるべきか？

日本計量生物学会1997, 98年度役員 選挙結果報告について

標記の選挙結果について、選挙監理委員会より
下記の報告がなされました。追加理事の選任は
1996年12月10日開催の当選理事による連絡会議に
より行われました（連絡会議議事録参照）。

役員選挙結果報告

日本計量生物学会選挙管理委員会
委員長 田村 義保
委員 橋本 修二

- (1) 締切日 1996年10月31日
開票日 1996年11月11日
開票場所 統計数理研究所
- (2) 有権者総数 352名
有効投票人数 63票
無効投票人数 2票
有効記名数 理事 186票
監事 57票
- (3) 選挙結果（当選人、五十音順）、理事15名、
監事2名
- 理 事
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 岩崎 学 | 上坂 浩之 | 魚井 徹 |
| 鵜飼 保雄 | 大橋 靖雄 | 駒澤 勉 |
| 佐藤 喬俊 | 佐藤 俊哉 | 高木 廣文 |
| 丹後 俊郎 | 椿 広計 | 橋本 修二 |
| 林 邦彦 | 柳川 堯 | 吉村 功 |
- 監 事
- 後藤 昌司 山口 直人

1997年度日本計量生物学会・応用統計学会合同年次大会のおしらせ

1. 日 時：1997年4月24日（木）、25日（金）
2. 場 所：東京大学農学部
3. 特別セッション
テーマ：薬理試験データの計画と解析
オーガナイザー：魚井 徹 山之内製薬
4. 一般講演

i) 申し込み方法：官製ハガキに氏名、連絡先
（所属、住所、電話番号）、演題名を記入して、
〒106 港区南麻布4-6-7

統計数理研究所 駒澤研究室内

プログラム編成作業委員会

まで、お申し込みください。なお、発表者の
少なくとも1名は日本計量生物学会また
は応用統計学会の会員である必要があります。

ii) 申し込みメ切：1996年2月21日（金）

iii) 抄録集用原稿について

提出メ切：1996年3月21日（金）

講演を申し込まれた方には、折り返し予稿作
成要項をお送りいたします。

プログラム編成作業委員会 岩崎 学、鵜飼保雄

1996年度応用統計学会・日本計量生物学会合同年次大会に寄せて

本年度の年次大会は昨年度に引き続き日本計量生物学会（以下計量生物と略す）と完全に一体化して行われた。一体化というのは特別講演・特別セッションを両学会共同で組織し、一般講演も学会の区別なく招集し、全体を一つのプログラムとして提供するという意味である。このような連合の動きは実はかなり前から始まっており、手許の資料によると少くとも1989年以降の年次大会は計量生物と同一会場で日を連続して行われているし、例えば1993年秋のシンポジウム「理工学における統計的方法」は実に計量生物の他、日本統計学会、日本計算機統計学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、計測自動制御学会、日本品質管理学会、品質工学フォーラムの協賛を得ている。協賛というのは協賛学会の会員にシンポジウム開催の情報を伝達して貰うことと、それら会員の参加費を当学会員と同じくすることを意味している。

この動きは1994年度年次大会を統計数理研究所50周年記念講演会および計量生物年次大会と共催することで一層促進された。その折は各講演プログラムはそれぞれの組織で独立に組まれたが、それらのプログラムを合冊にして提供したということとでそれ以前の単なる連合とは著しく異なっている。

る。その成功には三者の間で事前に綿密な話し合いが行われたこと、および統計数理研究所50周年記念会から資金、人、会場の援助があったことが大きく寄与している。

このような動きをさらに組織的なものにするために、1994年度中に計量生物と当学会の間で統計関連連合大会実行委員会（通称連絡委員会）が設置された。その連絡委員会は両学会の理事会と緊密に連絡をとりつつ年次大会の企画・運営を協同で行う他、その他の面での諸々の協力について話し合う場となっている。さらに年次大会のプログラム編成と当日の大会運営を担当するプログラム編成作業委員会を設置し、合同年次大会の実行を円滑にしている。

さて、本年度の年次大会は4月25、26日の両日、慶応義塾大学医学部北里講堂で270名（正会員171名、学生会員21名、非会員78名）という多くの参加を得て行われた。とくに非会員の参加が異例に多いのが特徴であった。特別講演は山田作太郎：水産資源解析における統計的諸問題、吉村功：医薬品開発に関連するデータの解析におけるいくつかの注意点の2件、およびオーガナイザー鶴飼保雄氏による特別セッション「植物の成長と繁殖の予測のための数理モデル」の中の3件、小林和彦：量-効果関係はなぜ振れる：オゾンが作物収量に及ぼす影響、竹澤邦夫：植物の成長のノンパラメトリック回帰による予測、酒井絵樹：野生植物における最適成長の理論的解析の計5件であった。山田氏はリングコード資源の推定と魚獲量のコントロール、吉村氏は医薬品開発の流れとそこで果たす統計学の役割および統計的方法の問題点、小林氏はオゾン濃度と農作物減収の関係に影響を与える共変量効果のモデリング、竹澤氏はやはり植物の成長に影響を与える環境要因効果のモデリングでとくにノンパラメトリック回帰のアプローチ、酒井氏は春植物、夏植物のような成長の多様性を説明する数理モデルについてそれぞれ論じた。本年の特別講演はいずれも計量生物を対象とするものになったが、どの講演も具体的問題を論じていることで応用統計学会の名に相応しく、熱心な討議が行われた。一般講演も17件を数え、二日間の午前・午後をいっぱいにする充実した年次大会であったと評価される。このように多くの興味を共通としながら、まったく独立に年次大会

を実行した時のことを考えると合同で行うことの意義は大きい。最後に、篠崎信雄委員長をはじめとするプログラム編成委員の方々の努力により極めてスムーズに大会運営がなされたことに感謝したい。

1996年秋の応用統計学会シンポジウムは北海道で日本計算機統計学会と日を連続して行うことが決定されている。また9月には日本統計学会と日本行動計量学会の年次大会が同時開催される。このような動きが活発化し、より広範かつ組織的な連合が実施されることを期待したい。

統計関連連合大会実行委員会座長 広津 千尋

注 この原稿は統計関連連合大会実行委員会からの依頼により、応用統計学会誌25巻2号に掲載されたものを、そのまま転載いたしました。

関連学会等のお知らせ

第19回薬効評価研究会

日 時：1997年3月1日（土）午後

場 所：山之内製薬(株)東京本社

招待講演（予定）：ICH-E9の状況報告、
医薬品機構の役割

特別セッション：安全性評価

連絡先：薬効評価研究会事務局

〒104 中央区勝どき3-12-1

クインタイルズ アジア インク内

TEL 03-3531-9111

日本学術会議関係報告

1. 総会・部会・常置委員会等（関連するものを中心に）

日本学術会議総会、部会、常置委員会等が平成8年10月15日（火）～18日（金）に開催された。総会においては、(1) 資料の紙質劣化の対策について（要望）（劣化の調査とマイクロフィルム化等）、(2) 規制の一部改正（日本学術会議会員の推薦手続きに関するもので、学協会の実状から一部の締め切り日を遅らせること）等が採択され、(3) 「著作物再販制度の存廃問題について」は長時間討議の結果、政府部内において総合的な政策調整をしてほしいことと、協議内容の公開、学術

書の出版条件の改善等について会長声明の形で発表することとした。また、「計算機科学の推進について」(研究所の設立要望)、「将来計画」,「研究者の養成・確保と教育」,「大学教員の任期制の導入について」等について自由討議を行った。

第4部会においては、研究連絡委員会見直し案にかなりの時間がさかれた。全体の定数が決められていて、新しい分野の研究連絡委員会がつくれないことなどによるものであるが、研連の再編成案(この案については、統計学が数学研連の専門委されているなどかなり問題点が多く、全体の考え方や個々の案に第4部内でもかなり異議が出されている)や、一律にある割合で研連委員を減らす案などが出されている。

第5常置委員会では、総会にはかった議題の他、「研究情報ネットワークを利用した学術研究の促進のために」をまとめ、第4部、第5部等の意見も聞いた上で最終案をまとめた。ここでは、統計関連学会の懇談会で一つの学会から出された要望も、「学協会の情報発信のための支援体制の必要性」の形で入れられている。対外報告の形で発表される予定。

2. 統計学研究連絡委員会

予算の関係で年間3回しか開催できず、本年度の第3回は12月2日に開催予定。

統計関連学会の懇談会では、(1) インターネットによるニュースなどの速報の試行を実行しており、その整備を検討している。(皆さんのご利用を期待している。ホームページは <http://sunyht2.ism.ac.jp/> である。ぜひご覧ください。また投稿ください)(2) 一つの学会が中心になって、事務局の共同運営の可能性を具体的に検討しはじめている。

藤井 光昭(日本学術会議第4部会員)

1996年度 第4回理事会議事録

日 時: 1996年9月19日(木) 18時~20時20分

場 所: 統計数理研究所 特別会議室

出席者: 駒澤(会長), 高木(庶務), 魚井(会計), 上坂, 鵜飼, 佐久間, 佐藤(喬), 佐藤(俊), 林(以上, 理事), 栗原(事

務局)

1. 前回議事録の確認

若干の字句訂正の後, 承認された。

2. 1997・1998年の役員選挙について

選挙管理委員として, 第2回理事会で田村義保氏(統計数理研究所)と橋本修二氏(東京大学)を推薦済みであり, 両氏の承諾も得ている。10月号のニュース・レターで役員選挙の告示を行い, 10月31日を期日として役員選挙を実施する。選挙管理委員会をニュース・レター発送の前に開催する必要がある, 事務局から両選挙管理委員に通知する。

3. 第4回計量生物セミナーについて

・臨床の部については上坂理事, 生物の部については鵜飼理事から, 演者と講演内容などについて, それぞれ配布資料をもとに説明がなされた。臨床の部については, 最終的な演者について, 上坂理事が椿理事と詳細を確認することとした。

・臨床の部と生物の部の参加人数は, 90人と40人とするが, 宿泊可能人数によっては, 100人と50人とする。この点については, 上坂理事が確認し鵜飼理事に連絡することとした。

・申込期限は10月25日必着とし, FAXで事務局に申し込むこととする。参加受付した者については, はがきを事務局より送付する。申し込み用紙には, e-mailアドレスを付けることにした。

・演者への謝金は従来通り支給せず, 交通費は実費を学会が負担することを確認した。

4. 大会の収支報告

・正式な報告は, 書類を整備してから行う予定である。広告代3万円が未収であり, これを加えると, 21万円超の黒字になる。

・学会から貸している10万円については, 5万円は連絡委員会運営費に拠出し, 残りの5万円が返還される予定である。

5. その他

・新しく発行されるJABESの無料配布は行われず, 年間会員15ドル, 非会員30ドルと有料になることが, 駒澤会長から報告された。なお, 各リー

ジョンには2～3部の無料配布がある予定とのことである。

・欠席している理事から、e-mailでの理事会の開催、理事会の議事内容を知りたいなどの要望があった。これに関して、e-mailを使用していない理事もあることから、ネット理事会の開催は困難である。しかし、議事録は理事会終了後、できるだけ早急に作成し事務局から各理事に送付する事とした。

・柳川理事より文書で、計量生物セミナーの講演の英文タイトルを演者に提出して頂ければ、大会同様にBiometric Bulletinに掲載するよう依頼するという提案があった。今回の計量生物セミナーから英文タイトルを演者に提出して頂くことにした。

・事務局に関して、楠氏から折半で部屋を使用しないかとの申し入れがあったが、これは応用統計学会を紹介する事にした。

・学術会議から学会の統計学研究連絡委員会への認定があったことが報告された。これにより、来年は学術会議への委員の推薦と推薦人の届け出が必要となる。

高木廣文 庶務担当理事

1997-1998年度当選理事による連絡会議議事録

日 時：1996年12月10日（火）17：55～19：00

場 所：統計数理研究所 特別会議室

出席者：駒澤、高木、魚井、岩崎、上坂、鶴飼、佐藤（喬）、丹後、橋本、吉村（以上、理事）、栗原（事務局）

1. 推薦理事5名の選出

議事に先立ち、座長の選出を行った結果、駒澤会長を座長に選出した。

地域性、専門性から次の5名を推薦理事として選出した。

大瀧 慈 広島大学原医研、岸野洋久 東京大学教養学部、竹綱正典 田辺製薬（株）、二宮正士 農業研究センター、三中信宏 農業環境技術研究所

2. 三役の選出案

新理事会の三役として、会長には吉村功理事（東京理科大学）、庶務理事には佐藤俊哉理事（統計数理研究所）、会計には佐藤喬俊理事（クインタイルズ・アジアインク）をそれぞれ候補者とした。

3. 第1回理事会の開催について

年会の特別セッションの内容決定、各理事の役割分担を決めるために、12月25日午後4時以降に第1回理事会を開催する予定だが、吉村理事の日程の確認後各理事に連絡する。

高木廣文 庶務担当理事

会計理事からのお知らせ

1997年度の会費の納入をお願い致します。本学会の会計年度は国際計量生物学会の会計年度に合わせて1-12月です。B会員およびC会員で、会費を1年間未納にした会員は規定に従い雑誌Biometricsが届かなくなります。本学会の運営を健全にするためにも、これまでに会費を未納にしている会員は、本年分と合わせ至急会費をご納入下さるようお願い致します。1997年度より会費が変わります。ご注意ください。

開発途上国援助のための「特別会費」は、会費に2,000円上乗せをお願い致します。なお、特別会費を送金される場合にも通常の会費納入口座を利用し、特別会費であることを通信欄に明記して下さい。詳しくは、ニュース・レターNo.48巻頭言をご覧ください。

会 費	1997年度	1998年度
A 会員	4,000円	4,000円
B 会員	10,000円	10,000円
C 会員	5,000円	5,000円
特別会費*	2,000円	2,000円

*A, B, C 会員会費に2,000円上乗せして下さい。

A 会員：Biometricsを購読しない正会員

B 会員：Biometricsを購読する正会員

C 会員：学生会員（Biometricsを購読する）

郵便振替口座：

00150-2-22365 日本計量生物学会

銀行振込口座：

第一勧業銀行飯田橋支店

普通 061-1499027

日本計量生物学会

または、

三和銀行 飯田橋支店

普通 624-3596166

日本計量生物学会

佐藤喬俊 会計担当理事

事務局からのお願い

銀行振込で会費を納入していただく場合、機関名が長いと会員名が切れてしまい、どなたからのお振り込みか、事務局では分からなくなることがあります。銀行振込の際には、必ず会員名を先頭にしてください。

学会への連絡、問い合わせ等は手紙またはFAXで下記事務局までお願いします。また、所属、連絡先等に変更のあった会員の方は、事務局まで御一報下さい。

ニュース・レター編集委員会から

以下の方々には、ニュースレターNo.55-56でBiometrics誌サマリー翻訳にご協力いただきました。

越智義道 大分大学工学部

佐藤俊哉 統計数理研究所

松山 裕 東大疫学・生物統計学

山本英二 岡山理科大学理学部

橋本修二先生から前号の「橋本修二先生は意志が弱く、なかなか禁煙にいたりません」という記載は誤っていると苦情をいただきました。もうしわけありませんので、訂正の記事を掲載します、とお伝えしたところ、「わざわざそんなことしなくてよろしい」とのご返事でした。おことばに甘えて訂正の記事は掲載しないことにします。橋本先生に対する禁煙運動は残念ながら年を越しそうです。「橋本修二先生に禁煙させる会」非会員の皆様もより一層のご協力を！（決して「いやがらせ」のための団体ではありませんので、おまちがいなく）

先日、疫学者のメッカJohn Snowパブに行ってきました。Snowがハンドルをはずして使えなくしたブロードストリートのポンプがあった場所に建っています。かなり興奮して行ったのですが、近所のオヤジたちのたまり場で、「Snow? むかしコレラかなんかと関係してるんだろ。このパブの名前はそいつからとったのさ」、というつれないことば。でも、John Snowパブでまっ昼間から飲んだエールはとってもおいしかった。ポンプのそばにはかってエール工場があり、そこではコレラによる死者はひとりも出ませんでした（といってもエールがコレラに効くわけではありませんから、念のため）。当時のロンドンっ子たちもきっとこのエールを飲んでいたことでしょう。

次号からは新委員の編集となります。お楽しみに。

日本計量生物学会事務局

〒106 東京都港区南麻布4-6-7

統計数理研究所駒澤研究室内

FAX 03 (3446) 1695

栗原恵美子

編集委員会 越智義道、佐藤俊哉、林 邦彦

〒106 東京都港区南麻布4-6-7

統計数理研究所（佐藤）

TEL 03 (5421) 8764

FAX 03 (3446) 1695